

A large red flag with a white border at the top, featuring a red diamond-shaped emblem on the left side. The text is printed in black on the white background.

中国の社会主義
文化大革命

(第五集)

北京 外文出版社

中国の社会主義文化大革命

(第五集)

外文出版社

北京

出版者のことば

「毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、プロレタリア文化大革命を最後まで
でおしすすめよう——文化大革命に関する宣伝教育の要点」これは、一九六六
年六月六日、『解放軍報』に発表されたものである。この要点は、解放いらい
の中国の思想・文化戦線における、プロレタリアートとブルジョアジー、社会
主義と資本主義という、二つの階級、二つの道の闘争の歴史的状況をわかりや
すくのべ、毛主席のプロレタリア文化革命路線に関する重要な指示を説きあか
し、現在のプロレタリア文化大革命のすばらしい情勢を分析し、この大革命の
性格、意義、その深い影響を指摘している。

目次

(一) 新中国成立いらい、わが国の思想・文化戦線には一貫して 先鋭な階級闘争が存在してきた……………	6
一、ひとにぎりの党内外のブルジョアジーの代表者は、反党・反社会主義の黒い糸をもって、毛 主席のプロレタリア文化革命の路線に対抗してきた……………	6
二、十六年らい、われわれは党中央と毛主席の直接の指導のもとに、この反党・反社会主義の黒 い糸と一連の重大な闘争をおこなってきた……………	8
三、文化大革命は、いま、空前の高まりを示している……………	12
(二) 文化大革命は、わが党とわが国の運命、前途、将来の様相にかかわる 第一の重大事であり、世界革命にかかわる第一の重大事でもある……………	14
一、これは、ブルジョアジーのたくらむ復活とプロレタリアートの反復活の、食うか食われるか の闘争である……………	14
二、これは、きわめて複雑な、また偉大な意義をもった闘争である……………	17

三、ひとにぎりの反党・反社会主義のブルジョアジーの代表者が摘発されたことは、悪いことではなく、良いことであつて、それは毛沢東思想の偉大な勝利である……………21

(三) 毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、徹底した革命派となり、

プロレタリア文化大革命を最後までおし進める……………24

一、この文化大革命とわが軍隊の革命化建設の強化との関係を深く認識し、積極的にこの闘争へ参加しなければならない……………24

二、思想の革命化を大いにすすめ、種々さまざまなブルジョア思想の浸食を防ぎ、克服する……………26

三、毛主席の著作を実際と結びつけて学び、運用し、「運用」ということに思い切つて力を入れ、毛主席の著作をすべての活動の最高の指示とする……………28

毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、

プロレタリア文化大革命を最後までおしすすめよう

文化大革命に関する宣伝教育の要点

ここ数カ月らい、党中央と毛主席の戦闘的な呼びかけのもとに、プロレタリア文化大革命の高まりが、全国にわたつてすさまじい勢いであらわれてきている。なん億という労働兵大衆、広はん革命的幹部、広はん革命的知識人は、毛沢東思想を武器として、思想・文化の陣地にとぐるをまいていたおびただしい妖怪変化を掃いている。へ三家村へ四家店へや、ブルジョアジーの「専門家」「学者」「権威者」「開祖」などがみな、さんざんにたたきのめされ、その威風はすっかり地に落ちてしまった。この文化大革命は、規模の大きなこと、勢いのあること、威力の強大なこと、押しよせる力のはげしいことでは、かつてみられなかったものである。この文化大革命は、いまわが国の社会主義事業を大いに前進させており、また、かならず世界革命の現在と未来に、はかりしれない深い影響をおよぼすであろう。わが軍の全指揮員、戦闘員は、積極的にこの大革命のなかに身を投じて、反党・反社会主義の黒い糸に砲火を浴びせ、この革命のなかで自分を鍛え、高めなければならない。

(一) 新中国成立いらい、わが国の思想・文化戦線には

一貫して先鋭な階級闘争が存在してきた

「ひとにぎりの党内外のブルジョアジーの代表者は、反党・反社会主義の黒い糸をもって、毛主席のプロレタリア文化革命の路線に対抗してきた

毛主席は一貫して、思想・文化戦線での階級闘争をひじょうに重視してきた。すでにわが国の新民主主義の時期に、毛主席は理論の面で、ブルジョアジーの文化路線を徹底的に批判している。毛主席の「新民主主義論」「延安の文学・芸術座談会における講話」は、文化戦線における二つの路線の闘争にたいするもつとも完全な、もつとも全面的な、もつとも系統的な歴史的総括であり、マルクス・レーニン主義の世界観と文学・芸術理論を継承し、発展させたものである。

わが国が社会主義革命と社会主義建設の段階にはいつてから、毛主席はまた、「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」「中国共産党全国宣伝活動会議における講話」という二つの著作を発表した。これは国内、国際の革命的な思想運動、文学・芸術運動の歴史的経験のもつとも新しい総括であり、マルクス・レーニン主義の世界観と文学・芸術理論を新たに発展させたものである。

毛主席のこれらの著作は、プロレタリアートの革命的な新文化について系統的に論述し、プロレタリア文化革命路線とその具体的な方針、政策を制定したもので、文学・芸術がプロレタリアートの政治に奉仕し、労働者・農民・兵士に奉仕し、プロレタリアート独裁と社会主義制度の強化、発展に奉仕しなければならないことを確定した。プロレタリアートの新文化に関する毛主席の偉大な思想は、われわれが文化革命をおこなううえでの強力な武器であり、かおりのよい花と毒草を見分け、革命と反革命を見分ける唯一の基準であり、われわれの党が文化革命を指導するうえでの最高の指示である。

ところが、ひとにぎりの党内外のブルジョアジーの代表者は、なが年らい、反党・反社会主義の黒い糸をもって、毛主席の輝かしい思想に対抗してきた。かれらは学術界、教育界、報道界、文学・芸術界、出版界、その他さまざまな文化界で、いろいろかくれた、曲がりくねった手段を使って、毛主席のプロレタリア文化革命路線の向こうをはり、プロレタリアートを相手に、はげしい指導権争いをくりひろげた。かれらはあらゆる手をつくして、新聞、放送、雑誌、書籍、教科書、講演、文学・芸術作品、映画、演劇、演芸、美術、音楽、舞踊などいデオロギーのさまざまな分野で、ブルジョア思想と修正主義思想をまきちらし、気遣いのように社会主義制度を攻撃し、プロレタリアート独裁を攻撃し、われわれの偉大な党を攻撃し、偉大な指導者毛主席を攻撃し、偉大な毛沢東思想を攻撃した。

かれらは一部の部門、一部の新聞・雑誌の指導権を乗っとり、すべての妖怪変化をほいままにオリからとび出させ、がんとして党の方針を実行しなかった。これらの部門では、事実上、プロレタリアートがブルジョアジーにたいして独裁をおこなったのではなく、ブルジョアジーがプロレタリアートにたいして独裁をおこなった

のである。すでに摘発された前中国共産党中央委員会高級党学校校長楊獻珍、前文化部副部長夏衍、前戲劇家協
会主席田漢、前中国文学芸術界連合会秘書長陽翰笙、北京大学副学長翦伯贊など、またこんど摘発された前中国
共産党北京市委員会書記処書記鄧拓、北京市副市長吳晗、前北京市委員会統一戦線工作部部长廖沫沙、前北京大
学学長陸平、およびかれらを支持し、庇護しているものこそ、こうしたブルジョアジーの代表者なのである。

長期にわたって、かれらは職権を利用し、大いに害毒を流し、わが党に狂暴な攻撃を加えて、ブルジョアジー
と修正主義の逆流をまきおこしてきた。『燕山夜話』『三家村ノート』『海瑞、皇帝をのしる』『海瑞の免
官』『謝瑞環』『李慧娘』『壮丁狩り』『兵は城下に迫る』『真紅の太陽』『早春二月』『舞台の姉妹』『林屋
雑貨店』などはすべて、この逆流の支配と影響のもとで出現した、反党・反社会主義の大毒草である。

二、十六年らい、われわれは党中央と毛主席の直接の指導のもとに、こ

の反党・反社会主義の黒い糸と一連の重大な闘争をおこなってきた

全国が解放されて間もなく、映画界に大毒草『武訓伝』があらわれた。武訓というのは封建勢力の召使であ
る。清朝末期、わが国人民が帝国主義と封建支配者に反対してたたかっていたとき、かれは反動的支配階級に毛
ひとすじも触れようとしなかったばかりか、封建文化を熱狂的に宣伝し、ひたすら封建的支配階級にこびへつら
った。ところが、映画『武訓伝』は武訓を、貧困な農民の子弟に教育をうける機会をあたえるため、すすんで自
分を犠牲にした「偉大な人物」として描きあげ、中国人民の革命的伝統を中傷し、ブルジョアジーの改良主義、

投降主義を大いに宣伝した。一九五一年五月二十日、『人民日報』は党中央と毛主席の指示にもつぎ社説を發
表して、『武訓伝』の反動性をきびしく指摘し、『武訓伝』への批判をくりひろげるよう全国に呼びかけた。こ
れが、新中国成立後、ブルジョア反動思想にたいしておこなわれた、最初の大規模な批判であった。

また、一九五四年九月から、『「紅樓夢」研究』および胡適の反動思想にたいする批判がくりひろげられた。
著者俞平伯（北京大学教授）はこの著書のなかで、ブルジョア観念論、形式主義、スコラ的考証法などによつ
て、『紅樓夢』は曹雪芹の自伝であると主張し、『紅樓夢』の反封建の積極的意義を歪曲し、抹殺した。俞平伯
のこの一連の方法は、反動的買弁ブルジョア学者胡適の路線を全面的にうけついでたものであった。胡適は一貫し
て共産党に反対し、人民に反対した人間であり、二回にわたって国民党の駐米大使をつとめ、すでに一九一九年
には「できるだけ問題の研究につとめ、できるだけ『主義』について語らないようにしよう」という反動的な論
文を發表して、マルクス・レーニン主義による中国革命の指導に反対し、わが国の青年を、現実から遊離し、階
級闘争を回避する邪道に引きこもらした。ブルジョアジーのこうした観念論の思想にたいして、きびしい批判
が全国的にくりひろげられ、胡適の種々さまざまな門弟どもは、完膚なきまでに論破された。

一九五五年五月に、胡風反革命集団にたいして、全国的な反撃が勝利のうちにくりひろげられた。胡風は裏切
り者であり、後に再び革命の隊列にもぐりこんできたものである。解放後、かれは文学・芸術界で悪党一味を組
織して、反革命活動をおこなった。一九五四年、かれは党中央にたいして三十万語にのぼる「意見書」を提出
し、党の文学・芸術方針と毛沢東の文学・芸術思想に悪らつな攻撃を加えた。一九五五年五月から六月にかけ
て、『人民日報』は胡風反革命集団に関する資料を三回にわたって掲載し、この集団の反革命の陰謀を徹底的に

粉碎し、一群れの大小さまざまな胡風分子を摘発した。

その後、一九五七年、ブルジョア右派は、わが党が整風をおこなう機会をとらえて、わが党に気遣いじみた攻撃をかけて来た。かれらは、中国でハンガリー事件をデッチあげて天下を大いに騒がせ、それによって「時局」収拾にのりだし、共産党にとって代わり、中国の国土に資本主義を復活させようと夢みたのである。党と毛主席は全国の人民を指導して、すさまじい勢いの反右派闘争を展開し、ブルジョアジーの狂暴な攻撃を撃退した。

一九五九年、党内の右翼日和見主義分子は党の廬山会議で、党中央に攻撃をしかけた。この頃、ハ三家村の悪党一味が右翼日和見主義分子に呼应し、△海瑞、皇帝をのしる△△海瑞の免官△をあいっいで発表し、つづいてまた、『前線』『北京日報』『北京晚報』に、『燕山夜話』『三家村ノート』などを、つづげざまに発表し、数年もの長い間、間断なく党に攻撃をかけたのである。

他の文化領域の各部門でも、妖怪変化がぞくぞくと、オリからとび出して来た。われわれは、かれらともまっこうから闘争をおこなった。今回の文化大革命は、つまり、こうした闘争をひきついだものであり、それが深まり発展したものである。

この一連の闘争は、いずれも党中央と毛主席の直接指導下にすすめられたものである。毛主席は一九六二年九月、党の第八期中央委員会第十回総会で、「絶対に階級闘争を忘れてはならない」という偉大な呼びかけを發した。つづいて、一九六三年、一九六四年、一九六五年にも、文化大革命の問題について、なん度もつづげざまにきわめて重要な指示をおこなった。

一九六三年十二月、毛主席は、各種の芸術形態——演劇、演芸、音楽、美術、舞踊、映画、詩、文学など——

には問題が少なくなく、その人数もひじょうに多いが、社会主義的改造は多くの部門で、いまになっても、ごくわずかな効果しかあげていない。多くの部門はいまでも「死人」に支配されている、と指摘した。毛主席はさらに、こうのべた。多くの共産党員は、封建主義や資本主義の芸術の提唱には熱心だが、社会主義の芸術の提唱には不熱心である、これはまことに奇怪なことではないか。

一九六四年六月、毛主席は中国文学芸術界連合会とその各所属協会の整風にあたって、またつぎのように指摘した。これらの協会とこれらの協会が掌握している出版物の大多数（少数の、いくつかのものは、よいといわれているが）は、この十五年間、基本的に（すべての人がそうだというわけではない）党の政策を執行せず、役人風やだんな風を吹かして、労働者・農民・兵士に接近せず、社会主義の革命や建設を反映しなかった。ここ数年間は、ついに修正主義の瀬戸際まで転落するにいたっている。もし真剣に改造しなければ、将来いつかは、かならずハンガリーのペトフィ・クラブのような団体になってしまうにちがいない。

このほか、毛主席はまた、文化革命の問題について、たびたび口頭で重要な指示をおこなった。

毛主席のこれらの指示は、文化面での、プロレタリア思想をおこし、ブルジョア思想をほろぼす闘争をきわめて大きく推進した。ここ三年らい、毛主席の直接の配慮と毛主席のプロレタリア文化革命の路線に導かれて、わが国の文化革命には新しい情勢があらわれるようになった。△紅燈記△△沙家浜△△威虎山の攻略△△白虎連隊への奇襲△などの革命的な現代もの京劇、バレエ△△女性第二中隊長△△白毛女△、交響楽△沙家浜△、泥塑△小作料取立所△、最近ひらかれた革命的な音楽会「上海の春」など革命的芸術の出現は、それをもっとも顕著に代表している。

思想、文学・芸術戦線における労働者・農民・兵士の広はんな大衆活動は、この革命的情勢を代表するいまひとつのものである。労働者・農民・兵士は、実際から出発してりっぱに毛沢東思想を表現した、多くのすぐれた哲学論文を書きあげ、わが国の社会主義建設と社会主義革命をたたえ、われわれの時代の新しい英雄をたたえ、われわれの偉大な党と偉大な指導者をたたえる、多くのすぐれた文学・芸術作品を生みだしている。

この数年間に、多くの部隊の文学・芸術関係者は、政治を先行させ、毛主席の著作を實際と結びつけて学び、運用し、基層組織に深くはいり、労働者・農民・兵士と結合してネオンの下の哨兵、南海の長城、『歐陽海の歌』などりっぱな作品をつくりだした。また、広州部隊の海上文化工作隊、南京部隊の海防文工団など優秀な組織があらわれた。そのほか、部隊には、政治先行の、簡素で精鋭な業余の公演隊や歌唱グループが、数多くあらわれている。

三、文化大革命は、いま、空前の高まりを示している

一九六五年九月、毛主席は党中央委員会のある会議で、かならずブルジョアシーの反動思想を批判しなければならぬと指摘した。この年十一月、『文匯報』は上海の党組織の指導のもとで、先頭をきって姚文元同志の論文「新作歴史劇『海瑞の免官』を評す」を発表し、呉晗らにたいする批判の幕を切っておとした。つづいて、『解放軍報』がこの論文を転載し、『海瑞の免官』は大毒草であると指摘した。

一九六六年二月末から、『紅旗』誌は伊達、関鋒、戚本禹らの諸同志の論文をあいっいで発表した。四月十八日と五月四日に、『解放軍報』は「毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、社会主義の文化大革命に積極的に参加しよう」「絶対に階級闘争を忘れてはならない」という二つの論文を、あいっいで発表した。五月八日以降、『紅旗』『解放軍報』『光明日報』および上海の『解放日報』『文匯報』がつぎつぎと論文を掲載して、『前線』『北京日報』『北京晩報』のブルジョア反党的立場を暴露し、鄧拓らひとにぎりの反党分子とその支持者に反撃を加えた。全国の広はんな労働者・農民・兵士は、ただちにへ三家村の粉砕のたたかいに身を投じた。文化大革命は、はばむことのできない、はげしい勢いで、急速に展開され、空前の高まりを示すにいたつたのである。このほか、ここ数年らい、広はんな革命の大衆は、若干の反動的な哲学的観点、歴史的観点およびいくつかの悪質な演劇、悪質な映画をも暴露し、批判した。

本年六月一日から、『人民日報』は「すべての妖怪変化を一掃しよう」「人びとの魂にふれる大革命」「ブルジョアシーの占拠している歴史学の陣地を奪取しよう」「毛沢東思想の新たな勝利」「ブルジョアシーの『自由、平等、博愛』のペールをはぎとろう」「プロレタリア革命派となるか、ブルジョア王党派となるか」などの重要な社説を立てつづげに発表して、文化大革命の偉大な意義を深くほり下げて論述し、当面の戦闘を力強く指導した。六月二日、北京大学の孫元梓ら七同志が陸平らの反党・反社会主義の犯罪行為を摘発した大字報が、新聞紙上に発表された。翌三日午後、中国共産党中央委員会は北京市委員会改組の決定を公布し、同時に、中国共産党中央委員会華北局第一書記李雪峰同志に北京市委員会第一書記を兼任させ、呉徳同志を第二書記に任ずることを発表した。改組後の新北京市委員会は、北京大学学長兼党委員会書記陸平および党委員会副書記彭佩雲のすべての職を解くこと、新市委員会の派遣した工作班が北京大学の社会主義文化大革命を指導し、かつ党委員会の

職権を代行することを決定した。中国共産党中央委員会の決定と新北京市委員会の決定は、たちまち首都人民と全国人民から熱烈な支持をうけ、全国の大文化大革命に新たな高まりをもたらした。現在、文化大革命の高まりは、ブルジョアジーと封建残余がいまなお保持しているすべての腐朽した思想的陣地と文化的陣地に力強い衝撃をあたえつつある。

(二) 文化大革命は、わが党とわが国の運命、前途、将来の様相にかかわる第一の重大事であり、世界革命にかかわる第一の重大事でもある

一、これは、ブルジョアジーのたくらむ復活とプロレタリアートの反復活の、食うか食われるかの闘争である

この十六年間、思想・文化戦線では闘争がつきつきと起こり、そのたびごとに深まっていった。こうした闘争はけっして孤立した、偶然の現象ではなく、内外の階級闘争の深化のあらわれである。一握りのブルジョアジーの代表者は、つねに、かたくなに自己を押しだし、必死になってブルジョア思想のがん強なとりでを固守し、氣違ひのように反党・反社会主義活動をおしすすめてきた。攪乱、失敗、ふたたび攪乱、ふたたび失敗、最後には滅亡——これはあらゆる反動派の論理である。一握りのブルジョアジーの代表者も、けっして例外ではない。

プロレタリア革命の歴史的经验が教えているように、革命の根本問題は権力の問題である。われわれは、鉄砲によって天下を手に入れ、権力を奪いとった。われわれは、それが帝国主義であろうと、封建主義であろうと、官僚ブルジョアジーであろうと、すべてくつがえすことができる。また、それが百万長者であろうと、千万長者であろうと、億万長者であろうと、すべて打倒することができる。かれらの財産を没収することができる。だが、かれらの財産を没収したからといって、かれらの頭のなかの反動思想を没収したことはならない。かれらは、いついかなる時でも、かならず復活を夢見るし、そのくつがえされた「樂園」をとりもどすことを夢見る。かれらは、全人口の比率から見ればごくわずかだが、その政治的な力はひじょうに大きく、かれらの反抗の力はその人口比率にくらべてはるかに大きい。

社会主義社会は旧社会から生まれただけのものであり、数千年にわたる階級社会が作りあげてきた私有觀念および各種の私有制と結びついた習慣の力や搾取階級思想・文化の影響は、けっして容易に一掃できるものではない。都市と農村の小ブルジョアジーの自然発生的な勢力は、たえず新しいブルジョア分子を生みだし、育てている。労働者の隊列は急速に増大し、拡大しているが、このなかにも一部の複雑な要素が混じりこんできている。すでに権力を獲得し、平和な環境におかれているという条件のもとで、党と国家の機関幹部の隊列にも、一部の墮落、変質した者があらわれている。同時に、国際的には、アメリカを先頭とする帝国主義と各国反動派が、戦争争恐かつ「平和的転化」という反革命の二つの手口を使い、なんとかしてわれわれをかたづけようとしている。ソ連共産党指導部を中心とする現代修正主義グループも、あらゆる手をつくしてわれわれをたたきつぶそうとたくらんでいる。こうした状況のもとで、もし階級闘争を忘れ、警戒心を失うならば、権力を失う危険が出て

くるし、資本主義の復活する危険が出てくる。

われわれとブルジョアジーとのたたかいは、長期にわたるものである。それは、まさに毛主席のつぎの教えの通りである。「わが国では、所有制のうえでは社会主義的改造がすでに基本的に完成しており、革命の時期におけるはげしいあらゆるような形の大規模な大衆的階級闘争はすでに基本的におわっているが、くつがえされた地主・買弁階級の残余はなお存在し、ブルジョアジーはなお存在しており、小ブルジョアジーはやつと改造されはじめたばかりである。階級闘争はまだおわっていない。プロレタリアートとブルジョアジーとの階級闘争、各派政治勢力のあいだの階級闘争、プロレタリアートとブルジョアジーとのイデオロギー面での階級闘争は、やはり長期にわたる、曲がりくねったものであつて、ときにはひじょうにはげしくなることさえある。プロレタリアートは自分の世界観にもとづいて世界を改造しようとし、ブルジョアジーも自分の世界観にもとづいて世界を改造しようとする。この面では、どちらが勝ち、どちらが負けるかの問題は、社会主義と資本主義とのあいだでまだほんとうには解決されていない」

思想・文化戦線におけるわれわれとブルジョアジーの代表者とのたたかいは、けつして大局にかかわりのない「文章上の論戦」のようなものではなく、ブルジョアジーとプロレタリアートという二つの階級の闘争であり、社会主義と資本主義という二つの道の闘争であり、資本主義と社会主義のあいだのどちらがどちらにうち勝つかの闘争であり、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想と資本主義、修正主義思想との闘争であり、ブルジョアジーのたくらむ復活とプロレタリアートの反復活との闘争である。この点については、けつして甘く見てはならず、少しでも麻痺するようなことがあつてはならない。

二、これは、きわめて複雑な、また偉大な意義をもった闘争である

思想・文化戦線におけるブルジョアジーの代表者の反党・反社会主義活動は、資本主義復活に鳴りもの入りで道をひらくものである。

プロレタリアートの歴史的経験は、われわれに、ブルジョアジーが反革命の復活をたくらむとき、かれらは二つの手口をつかうと教えている。一つは、武力でプロレタリアートの革命を鎮圧することである。一八七一年、フランスのプロレタリアートはパリに世界最初のプロレタリアート独裁の権力をうちたてたが、その後、反革命の武力鎮圧にあつて失敗した。ロシアは、十月革命の勝利のあと、すぐ、資本主義的帝国主義国家十四ヶ国の共同攻撃と復活をねらう国内の地主階級、ブルジョアジー白衛軍の反撃にあい、三年にわたる戦争をつづけてやつと新生の革命権力を守り通した。ブルジョアジー自身、または、かれらが国際反動勢力とぐるになつて武力攻撃をしかけ復活をはかるやり方、これは強盗が凶器をもつて略奪する方式である。この方式については、だれでも比較的容易に見ぬことができ、比較的注意を払ひ、警戒心をもつものである。復活をはかるもう一つの方式は「平和的転化」である。これは、まずイデオロギーから手をつけて、かれらが復活、転覆、反革命クーデターをおこなうのに世論の準備をするものである。そして、いったん時機が熟せば、すぐかれらは権力を奪取し、ブルジョアジー独裁を復活する。この方式については、人びとは往々にして見ぬことができず、往々にして注意をはらわず、警戒心をもたない。

一九五六年のハンガリー反革命事件は、ペトフィ・クラブの一群れの修正主義文化人が先ぼう役をつとめたも

のである。ユーゴスラビアのチトー一味は、とうに「平和的転化」を完了してしまっている。フルシチョフ修正主義グループがソ連で資本主義復活をおこなうにあたって、こうした方法がとられた。これらの血にまみれた歴史の教訓を、われわれはけっして忘れてはならない。

こんど摘発された、わが国のひとにぎりのくつがえされたブルジョアリーの代表者も、こうした方法をとった。かれらは、イデオロギーをつかみ、上部構造をつかみ、理論、学術、文学、芸術などにとりくみ、文化戦線で帝王将相、才子佳人、外国人、死人に舞台を支配させ、反党・反社会主義の宣伝をおこなった。かれらは蚕食政策をとり、われわれの思想の陣地をひと口ひと口食いつくそうとした。かれらは浸透政策をとり、ブルジョア思想を少しずつわれわれの頭につめこもうとした。かれらの手口は、きわめて隠べいされた、ずるがしいものである。かれらは、長期にわたって党の宣伝手段を握り、赤旗をおし立てながら赤旗に反対した。かれらは、物語をかたり、知識をつたえ、学術研究をおこなうという隠れミノを着て、党に気違いじみた攻撃をくわえてきた。かれらは、個人的に奮闘し、名をあげ一家をなすというブルジョア思想で青年をむしばみ、わが党と大衆を奪いあい、若い世代を奪いあつた。かれらは、党の名をかたり、社会の妖怪変化どもをかれらの殺人宿に集め、気違いじみた反革命活動をおこなった。

かれらのこうした活動はすべて、資本主義復活を実現するための政治的、思想的、組織的な準備活動である。かれらの手口と、ハンガリーのペトフィ・クラブやフルシチョフの手口とは、似たり寄ったりである。もしこの点を見ぬくことができなければ、ひじょうに危険である。

したがって、われわれはこれらブルジョアリーの「学者」「専門家」「作家」たちがその黒幕の支持と庇護のもとで作った、反党・反社会主義の文章、パンフレット、悪質な演劇、映画を、けっして、「書生のむほんは、三年かかっても成功しない」「二ひきや三びきのドジョウでは、大波をおこすことも、船をくつがえすこともできない」ものとみてはならない。われわれはまた、権力を奪取したのちは、すべてめでたしで、枕を高くして寝ることができる、と考えてもならない。もしわれわれが、建設、生産、文化・教育をすすめることだけに注意し、蒋介石匪賊一味、アメリカ帝国主義に対処することだけを考えて、ブルジョアリーが復活をたくらみ、内部から転覆をはかる可能性があることを軽視し、ぼんやりとしていてブルジョア野心家の陰謀達成をゆるすなら、われわれは歴史に対する犯罪人となってしまうだろう。

それだからこそ、この闘争はつぎのような深い偉大な意義をもっているのである。

第一、プロレタリア文化大革命は、われわれのプロレタリアート独裁を守るためのものである。

もしこの革命をおこなわず、ブルジョアリーの代表者の資本主義復活の陰謀達成をゆるすならば、ハンガリー式の事件、フルシチョフ流の反革命クーデターが起こるだろう。そのときには、蒋介石匪賊一味が大陸に舞いもどり、大量の地主、悪徳ボス、還郷団があらわれて反攻をおこない、報復に出る可能性があり、われわれは党を失い、国を失い、命を失って、歴史の大後退がおこるだろう。わが国民が百余年にわたって、革命のためにつぎつぎとしかばねをのり越え、血と犠牲によってかちとってきた果実は、水泡に帰し、わが国民は、ふたたび帝国主義、ブルジョアリー、封建階級の牛馬となるだろう。

まさに、毛主席がつぎのように指摘している通りである。「地主分子、富農分子、反革命分子、悪質分子、妖怪変化のたぐいがいつせいにとびだしてくるだろう。そして、われわれの幹部はそれを意に介さず、ひどい場合

には多くのものが敵味方の区別がつかず、たがいに結託し、敵によってむしろむしばまれ、分化、瓦解させられ、ひきずり出され、もぐりこまれ、さらに、多くの労働者、農民、知識人もまた敵の硬軟両様の手ぐちのつてしまふなら、それほど長い期間がたたなくても、つまり短くて数年、十数年、長くて数十年もたてば、不可避的に全国的な規模の反革命の復活があらわれ、マルクス・レーニン主義の党は修正主義の党にかわり、ファシスト党にかわり、中国全体が変色してしまふだろう」

第二、プロレタリア文化大革命は、世界の現在と将来にも、はかりしれない深い影響をおよぼすであろう。

最初の社会主義国ソ連は、フルシチョフ修正主義によってすでに資本主義復活の道へ引きこまれてしまった。現在、全世界の被抑圧人民と被抑圧民族は、みな、革命的な新中国を、かれらの希望のありかとみている。わが国民は、党中央の指導のもとで、マルクス・レーニン主義、毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、帝国主義に反対し、現代修正主義に反対し、各国反動派に反対する確固とした立場を堅持し、大いに敵の威風をそぎ、大いに人民の志気を高め、世界人民に輝かしい手本をうち立てている。わが国は、すでに世界革命の根拠地となっている。わが党は、すでに世界革命の旗手となっている。毛沢東思想は、世界革命の燈台である。もし中国がほんとうにこれら反党・反社会主義分子によって変色させられるなら、各国の被抑圧人民はどれだけ余計に死者を出し、どれだけ余計に苦難をなめるかしれず、世界革命の勝利もどれだけ遅れるかしれない。

ひとにぎりのブルジョアジーの代表者の反党・反社会主義活動は、国際的に帝国主義、現代修正主義、各国反動派と呼応しあつたものである。かれらが摘発されたことは、国外の階級敵にたいする手痛い打撃でもあり、わが党内にしかけられた時限爆弾をとりのぞいたことにもなる。わが国の文化大革命が深まってくると、帝国主

義、現代修正主義、各国反動派は、いっせいに宣伝機械を動かして、われわれをさかんにのしり、攻撃した。このことこそ、われわれのこの闘争の偉大な意義を逆の面から証明しているのである。

第三、プロレタリア文化大革命は、われわれひとりひとりの同志にとって、実際の階級闘争の鍛練である。この闘争は、われわれの目をあらためて見ひらかせ、社会主義社会が階級のあり、階級闘争のある社会だということをしつそう深く認識させた。ただ経済戦線での社会主義革命、生産手段所有制の社会主義的改造だけでは不十分であり、強固なものではない。さらに、政治・思想戦線での徹底した社会主義革命がどうしても必要である。政治・思想の分野における、社会主義と資本主義のあいだのどちらがどちらにうち勝つかの闘争は、ひじょうに長い年月——数十年、はては数百年——をかけて、はじめて決着をつけることができるのである。一本の黒い糸を断ち切っても、もう一本の黒い糸がまた出てくるだろう。一部のブルジョアジーの代表者が見破られても、見破られていない者がまだわれわれのまわりにうずくまっている。敵の資本主義復活の手法がまったく隠べいされた、ずるがしこいものであるために、われわれがかれらを摘発することは、われわれの階級闘争の能力をきたえ、われわれに階級闘争の複雑性を理解させることにもなる。

三、ひとにぎりの反党・反社会主義のブルジョアジーの代表者が摘発されたことは、悪いことではなく、良いことであって、それは毛沢東思想の偉大な勝利である

われわれの党、政府、軍隊、文化領域の各部門は、どれも真空のなかに生活しているわけではない。激烈な階

級闘争は、当然これらの部門に反映してくる。ひとにぎりのブルジョアジーの代表者が党、政府、軍隊、文化領域の各部門にまぎれこんでくること、これはけつして不思議なことではない。これは、階級闘争の必然の法則である。われわれの階級敵は、とりでは内部から攻め破るのをもっともたやすいということを知っている。このためかれらは、つねにあらゆる手をつかって、「まるめこみ、もぐりこむ」方法をとり、われわれの隊列にまぎれこみ、わが党内にかれらの代理人をさがし求める。これは、避けようとしても避けられるものではない。まさに毛主席の指摘している通り、「どのような事物も矛盾をふくまないものはなく、矛盾がなければ世界はない」

「党内における異なった思想の対立と闘争は、つねに発生するものである。それは社会の階級的矛盾および新しい事物とふるい事物との矛盾が、党内に反映したものである。もし、党内に矛盾と、矛盾を解決するための思想闘争がなくなれば、党の生命もとまってしまう」のである。

この数十年間、われわれの党、われわれの部隊は、まさに各種の誤った路線と、また党内、軍内にまぎれこんだ各種の階級敵とまっこうから対決した闘争をおこなうなかで、発展、強化してきたのである。

わが党の歴史でいえば、党を分裂させようとする陳独秀、張国燾ら裏切り者の犯罪的な活動があつたではないか。新中国成立後では、高崗、饒漱石の反党陰謀活動があつたではないか。党にたいする胡風反革命集団とブルジョア右派の攻撃があつたではないか。さらには、廬山会議における右翼日和見主義分子の党への攻撃があつたではないか。かれらも、わずかな期間ではあるが、暗雲をおこし、毒気をまきちらすまでになつたではないか。だが、その結果はどうだつたか。かれらは、つぎつぎと惨敗をきつした。かれらは、暴露されるとたちまち完全に孤立してしまつた。かれらは、わが国の革命と建設の事業の発展をはばむことができなかった。地球はやはり

変わることなく動いており、歴史の車輪はやはり前へ前へとまわっている。こんにち、ひとにぎりのブルジョアジーの代表者が、たとえひじょうに深くおし隠し、ひじょうに高くはいあがり、ひじょうに巧みに活動していても、それがなんの役に立つだろうか。やはり、一つ一つ摘発され、そのハリコの虎の正体をあばきだされているではないか。

これらすべてのことは、毛沢東思想の巨大な威力をあますところなく物語っている。このことは、わが党が、政治上、思想上、組織上これまでになく強固で統一した党であり、はげしいあらしの試練をへてきた党であり、大衆と密接に結びついた党であり、豊かな闘争の経験とすぐれた革命的伝統をもつた党であり、光榮ある、偉大な、正しい党であることを物語っている。ひとにぎりの反党・反社会主義分子は、屋間は姿をあらわせない一群の悪党、ブンブンうなるハエにすぎない。こんにちの時代は、広はんな労働者・農民・兵士が毛沢東思想を身につける時代である。われわれが毛沢東思想で武装し、目を見ひらきさえすれば、かれらはひとたまりもない。かれらの反党・反社会主義活動は少しも恐ろしいものではない。恐ろしいのは、われわれが警戒心をゆるめ、かれらのワナにかかることである。

われわれは、この闘争のなかで、党、政府、軍隊、文化領域の各部門にまぎれこんだ一群の反党・反社会主義分子を摘発した。これは、社会主義革命におけるわれわれのいま一つの新しい大きな勝利であり、毛沢東思想の偉大な勝利である。

(三) 毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげ、徹底した革命派となり、プロレタリア文化大革命を最後までおし進める

一、この文化大革命とわが軍隊の革命化建設の強化との関係を深く認識し、積極的にこの闘争へ参加しなければならぬ

プロレタリアートの歴史的経験が教えているように、権力を保持し強化することは、権力を奪取するよりもはるかに困難なことである。ブルジョア革命は、権力を奪取すれば、それで任務を達成したことになる。われわれのプロレタリア革命は、いつさいの搾取階級、いつさいの搾取制度を一扫しようとする革命であり、労働者と農民、都市と農村、頭脳労働と肉体労働の差異をしないでいくもつとも徹底した革命である。したがって、権力の奪取は、万里の長征の第一歩をふみだしたにすぎない。プロレタリアート独裁は、われわれの命の綱である。われわれは、プロレタリアート独裁に依拠して、内外のあらゆる敵の復活の陰謀を粉碎しなければならぬ。まさに毛主席が指摘しているように、「勝利した人民にとって、これは衣料や食物とおなじように、片ときも手離すことのできないものである。これは大したものであり、護身の守り札であり、伝家の宝刀であり、国外の帝国主義と国内の階級が徹底的にきれいに消滅される時までには、ぜったいに、この宝刀を使わないでほうっておくわけにはいかない」のである。

われわれ軍隊は、プロレタリアート独裁のおもな支柱である。すべての反革命組織と反革命分子は、われわれを死ぬほど恐れ、骨の髄まで憎んでいる。一九五七年、ブルジョア右派の「章(チヤン)伯鈞(ボクン)羅(ロ)隆基(ロンキ)同盟」は、解放軍こそかれらが権力の座につくうえでの最大の障害だとおおびらに叫んだではないか。かれらは、つねに、部隊にさまざまな影響を与え、かれらの握る各種宣伝手段を通して毒素をふりまき、われわれ鉄砲を握る者むしばみ、われわれの鉄砲をかれらに奉仕させようとたくらむ。かれらのこうした陰謀は、もちろん実現するものではない。なぜなら、われわれの軍隊は、毛主席がみずからつくりあげた軍隊であり、数十年にわたる革命戦争の鍛練とはげしいあらしの試練をへてきた人民の軍隊であり、ひじょうにプロレタリア化した、ひじょうに革命化した軍隊である。だが、もしわれわれが警戒心をゆるめるなら、かれらはすぐすぎに乘じてはいりこんでくるであろう。

ここ数年の事実も、この点を証明している。

われわれの部隊でも、一部の文学・芸術組織は、今壮丁狩りのような悪質な映画、演劇を撮影、公演したではないか。一部の者は、いくつかの悪質な作品を書いたではないか。ある者は、楊献珍の「合二而一」の曲論をまき散らしたではないか。ある者は、『燕山夜話』のような反党・反社会主義の大毒草をほめたたたえたではないか。ある者は、かれらの毒にあたって、闘志がおとろえ、安心して服役していらなくなったり、そのうえへ三家村の悪党一味を弁護したではないか。これらはごく少数ではあったが、われわれ人民軍のなかに生まれたのであり、これにいいかげんに対処してよいだろうか。どうしてわれわれが、こうした事態がひきつづき発展していくのをゆるし、かれらの影響がひきつづき拡大していくのをゆるすことができるだろうか。

だからこそ、われわれは、イデオロギーの分野での階級闘争に十分関心を払わなければならないのである。け

つして、この闘争を小さい事柄と考えるはならず、自分には関係がないと考えるはならず、文化人だけの問題だと考えてはならない。けつしてフルシチョフのような人間をわれわれのまわりにうずくまらせておいてはならず、けつして政治的・思想的警戒心をゆるめて、これらの連中が毒草をわれわれの頭につめこむのをゆるしてはならない。なぜなら、鉄砲には思想がなく、もし鉄砲を握る人の思想が変われば鉄砲の奉仕する対象も変わるからである。この点を忘れると、マルクス・レーニン主義の根本的観点を忘れたことになり、それこそバカものになる。われわれは、かならず、毛主席の偉大な呼びかけにこたえ、イデオロギーの分野の闘争に深く注意し、プロレタリアートとしての政治的自覚を大いに高め、目を大きく見ひらき、きゆう覚を大いに鋭くしなければならぬ。われわれは、どのようにはげしいあらしのなかでも、はつきり見きわめ、しつかり立ち、がっちりもちこたえて、プロレタリアートの立場を堅持しなければならない。われわれは、けつして、反党・反社会主義分子やその支持者に、わが部隊のどのような陣地をも占領させてはならない。われわれは、かならず、みずからすすんでこの大闘争に積極的に参加し、これら反党・反社会主義の毒草を徹底的に批判し、かれらの影響を一掃しなければならぬ。

二、思想の革命化を大いにすすめ、種々さまざまなブルジョア思想の浸食を防ぎ、克服する

毛主席はわれわれにつきのように教えている。「敵の武力がわれわれを征服できないこと、この点はすでに証明されている。だが、ブルジョアシーのへつらいは、われわれの隊伍のなかの意志の弱いものを征服するかも知

れない。銃をもった敵には征服されたことがなく、こうした敵のまえでは英雄とよばれるに恥じなかったが、糖衣でくるんだ砲弾の攻撃にはたえきれず、糖衣砲弾のまえには敗北を喫する、というような共産党員がいるかも知れない。われわれはこうした事態を未然にふせがなければならない」

この文化大革命のなかで暴露された多くの事実が証明しているように、われわれの敵は、たえず糖衣砲弾でわれわれをうち倒そうとしている。われわれのなかにも、ブルジョア個人主義の世界観が改造されていないために、敵の毒にあたり、敵のワナにかかった者が一部にいてはならないか。このことは、ブルジョア個人主義がすべての悪の根源であることを教えている。われわれ一般の同志には、すべて共産主義思想と個人主義思想の闘争が存在し、しかもそれは毎日おこなわれている。こうした闘争は、客観的存在であつて、避けようにも避けられないものではない。ただ自覚的に闘争をすすめ、毎日顔を洗つてこそ、プロレタリア思想がブルジョア個人主義思想にうち勝つことができるのである。闘争をゆるめれば、個人主義が発展してくるし、小さい個人主義から大きい個人主義へ発展する。したがつて、われわれひとりひとりの同志は、いつそう自覚的に思想の革命化をなしとげ、種々さまざまなブルジョア個人主義を克服し、雷鋒^{レイフオン}、王杰^{ワンジェ}、袁賢得^{ワンシェンデ}、焦裕禄^{チヤオユル}、南京路の模範第八中隊などの英雄的人物や先進的組織に学び、誠心誠意人民に奉仕して、どんな妖怪変化もわれわれのところにその足場を見つけ出せないようにしなければならない。

プロレタリア文化大革命は、人びとの魂にふれる大革命である。それは、数千年にわたつてあらゆる搾取階級が作りだしてきた、人民を毒する旧思想、旧文化、旧風俗、旧習慣を徹底的にぶちこわすものである。それは、広はんな人民大衆の間に、まったく新たなプロレタリアートの新思想、新文化、新風俗、新習慣を創造し、形成し

ようとするものである。これは、いままでの人類の歴史にない、風俗習慣刷新の偉大な事業である。封建階級、ブルジョアジーのあらゆる遺産、風俗、習慣にたいしては、みなプロレタリア世界観による徹底した批判をおこなわなければならない。われわれは、この闘争で、大いにプロレタリア思想をおこし、大いにブルジョア思想をほろぼさなければならない。ブルジョアジーの思想や生活感情を宣伝する悪い作品に反対し、各種の邪気邪風や俗っぽい気風に反対して、革命的教育的意義に富んだ多方面にわたる文化活動をくり広げ、革命的書物を読み、革命歌をうたい、革命劇を演じ、革命的映画を見、革命物語をかたり、革命的放送を聞いて、たえずわが軍の戦闘力をうち固め、ひき上げなければならない。

三、毛主席の著作を実際と結びつけて学び、運用し、「運用」ということに

思い切って力を入れ、毛主席の著作をすべての活動の最高の指示とする

わが国のプロレタリア文化大革命のもっとも根本的な任務は、階級闘争のあらしのなかで、毛沢東思想を実際と結びつけて学び、運用し、毛沢東思想を普及させ、毛沢東思想を広はんな労働兵大衆と結合させることである。われわれの同志は、一人ひとりがまじめに毛主席の著作を実際と結びつけて学び、運用して、闘争のなかで、自分の毛沢東思想の水準を高めていかなければならない。

われわれは、現在の文化大革命のなかでぶつかった、さまざまな問題をもって、それと関係のある毛主席の著作と言論集を、真剣に学ばなければならない。たとえば、社会主義社会における階級と階級闘争についての論

述、プロレタリアート独裁の強化についての論述、文化革命の路線についての論述、イデオロギーの分野における階級闘争の長期性、複雑性についての論述、なにかがかりのよい花であり、なにかが毒草であるかを見分けることについての論述、思想改造についての論述などがそれである。

毛主席はマルクス・レーニン主義の基本的原理にもとづいて、中国革命と世界革命の実践の経験を総括し、ソ連の党と国家が現代修正主義グループによって乗つとられた苦い教訓を総括して、社会主義の時期でも階級闘争に大いに力を入れ、プロレタリアート独裁を堅持し、現代修正主義を防ぎ、これに反対し、資本主義の復活を防ぐことについて、系統的な理論と政策を提起し、プロレタリアート独裁に関するマルクス・レーニン主義の学説を、大いに豊富にし、発展させた。われわれはかならずこの文化大革命のなかで、いちだんと毛主席のこれらの指示を学習、体得し、毛主席の指示をわれわれのすべての活動の最高の指示とし、すべての是非を見分ける、また真理と誤りを見分ける唯一の基準としなければならない。

われわれは、複雑な闘争のなかで、なにかが真のマルクス・レーニン主義であり、なにかがニセのマルクス・レーニン主義であるか、なにかがかりのよい花であり、なにかが毒草であるかを見分けなければならない。毛沢東思想と合致するものなら、なにかごとでも、われわれはあくまでそれを擁護し、あくまでそれを実行する。毛沢東思想にそむき、反対するものなら、その人がどんなに高い職務についていようと、どんな「権威者」であろうと、われわれはそれをあばきだして白日のもとにさらし、完膚なきまでに論破しなければならない。

毛沢東思想は現代のマルクス・レーニン主義の最高峰であり、もっとも高度な、もっとも生きたマルクス・レーニン主義であり、帝国主義、現代修正主義、各国反動派に反対するもっとも鋭い武器である。あらゆる妖怪変

化は、毛沢東思想という照魔鏡のままで、その正体をすっかりさらけ出すであろう。今回の偉大なプロレタリア文化大革命は、毛沢東思想がひとたび広はん労働者・農民・兵士大衆によって把握されると、たちまち巨大な物質的力になることを、あらためて生き生きと証明している。毛沢東思想で武装した人こそ、もつとも大きな戦闘力であり、もつとも勇敢であり、もつとも聡明であり、もつとも心が一致している。広はん労働兵大衆が毛沢東思想という政治的な望遠鏡と顕微鏡をもったならば、かれらはすべての是非を見分ける最高の基準をもったことになり、大所高所に立ち、遠くまで見わたし、現象をおして本質をはつきりと見てとることができるようになる。毛沢東思想があれば、きゆう覚はもつとも敏感になり、目はもつとも鋭くなり、反党・反社会主義分子がどのような手口を使おうと、われわれの目からのがれることができなくなる。

それだからこそ、敵は毛沢東思想をもつとも恐れ、憎んでいるのである。しかし、敵が毛沢東思想に反対すればするほど、われわれはますます毛沢東思想を熱愛する。われわれは、毛主席の著作を実際と結びつけて学び、運用することを、しっかりとらえて放さないようにしなければならない。われわれがこのようにするのは、革命にとって必要であり、情勢にとって必要であり、対敵闘争にとって必要であり、修正主義に反対し、それを防止することに粉砕するための準備活動を十分おこなうことと必要であり、修正主義に反対し、それを防止することと必要であり、また資本主義の復活を防止することと必要である。毛沢東思想は、われわれにとっての命の綱である。毛沢東思想に反対するものならだれであろうと、われわれは全党をあげてこれを誅し、全国をあげてこれを討つであらう。

中国人民解放軍は毛主席がみずからつくりあげた人民軍隊であり、われわれの一人ひとりの同志はみな毛沢東

思想にはぐくまれて成長したものである。党中央、毛主席ならびに軍事委員会、リン彪同志は、ブルジョア反動思想の批判に参加するよう、また、今回の文化大革命のなかで重要な役割をはたすよう、われわれに呼びかけている。われわれは、けっして党中央、毛主席ならびに軍事委員会、林彪同志のわれわれにたいする期待にそむいてはならない。

われわれは文化大革命に関する党中央、毛主席の指示を真剣に学び、徹底した革命派となつて、全国人民とともに、反党・反社会主義の黒い糸を徹底的に断ち切り、われわれのプロレタリアート独裁を守りぬき、党中央を守りぬき、毛主席を守りぬき、毛沢東思想を守りぬかなければならない。

今回の文化大革命への参加を通じて、われわれはまた、いちだんと政治を先行させ、「四好中隊」の「四好」に根をおろさせ、戦争にたいする準備を強化しなければならない。われわれは銃をもたない敵とたたかうと同時に、銃をもった敵にも深い注意を払わなければならない。もし、アメリカ帝国主義がえて戦争をわが国人民におしつけてくるならば、われわれはかならず断固として、徹底的に、きれいさっぱりと、ひとり残らず、かれらを一掃する。

われわれは、かならず党中央、軍事委員会および林彪同志の指示にしたがい、毛主席の著作を読み、毛主席の言葉をきき、毛主席の指示どおりに事を選び、毛主席のりっぱな戦士にならなければならない。われわれは片ときも階級闘争を忘れてはならず、片ときもプロレタリアート独裁を忘れてはならず、片ときも政治を先行させることを忘れてはならず、片ときも毛沢東思想の偉大な赤旗を高くかかげることを忘れてはならず、われわれの社会主義革命と社会主義建設の事業を、つぎつぎと新たな偉大な勝利へ導いていかなければならない。

中国の社会主義文化大革命（第五集）

1966年 初版発行

定 価 40 円

出 版 者 外 文 出 版 社
(北京阜成門外百万莊)

発 行 者 中 国 国 際 書 店
(北 京 P. O. Box 3 9 9)

編号: (日) 3050-1482

3-J-717P
00023

